

第2回 荒川区地域経済活性化及び観光プロモーション推進協議会 次第

日 時:令和7年10月16日(木)

午前10時00分

会 場:荒川区役所6階
産業経済部会議室

1 開 会

2 区長挨拶

3 各分科会の取組状況について

(1) 地域経済活性化に関する分科会

(2) 観光プロモーションに関する分科会

4 意見交換

5 その他

6 閉会

(配付資料)

・資料1 地域経済活性化に関する分科会における取組状況 P1～7

・資料2 観光プロモーションに関する分科会における取組状況※ P8～24

※資料の一部は、著作権の関係で掲載しておりません。

(参考資料)

・参考資料1 荒川区地域経済活性化及び観光プロモーション推進協議会 委員名簿 P25

・参考資料2 荒川区地域経済活性化及び観光プロモーション推進協議会 委員名簿 P26
分科会別

・参考資料3 会議の開催スケジュールについて P27

地域経済の活性化に関する分科会の取組状況

1 分科会において委員から出された主な課題および対応案について

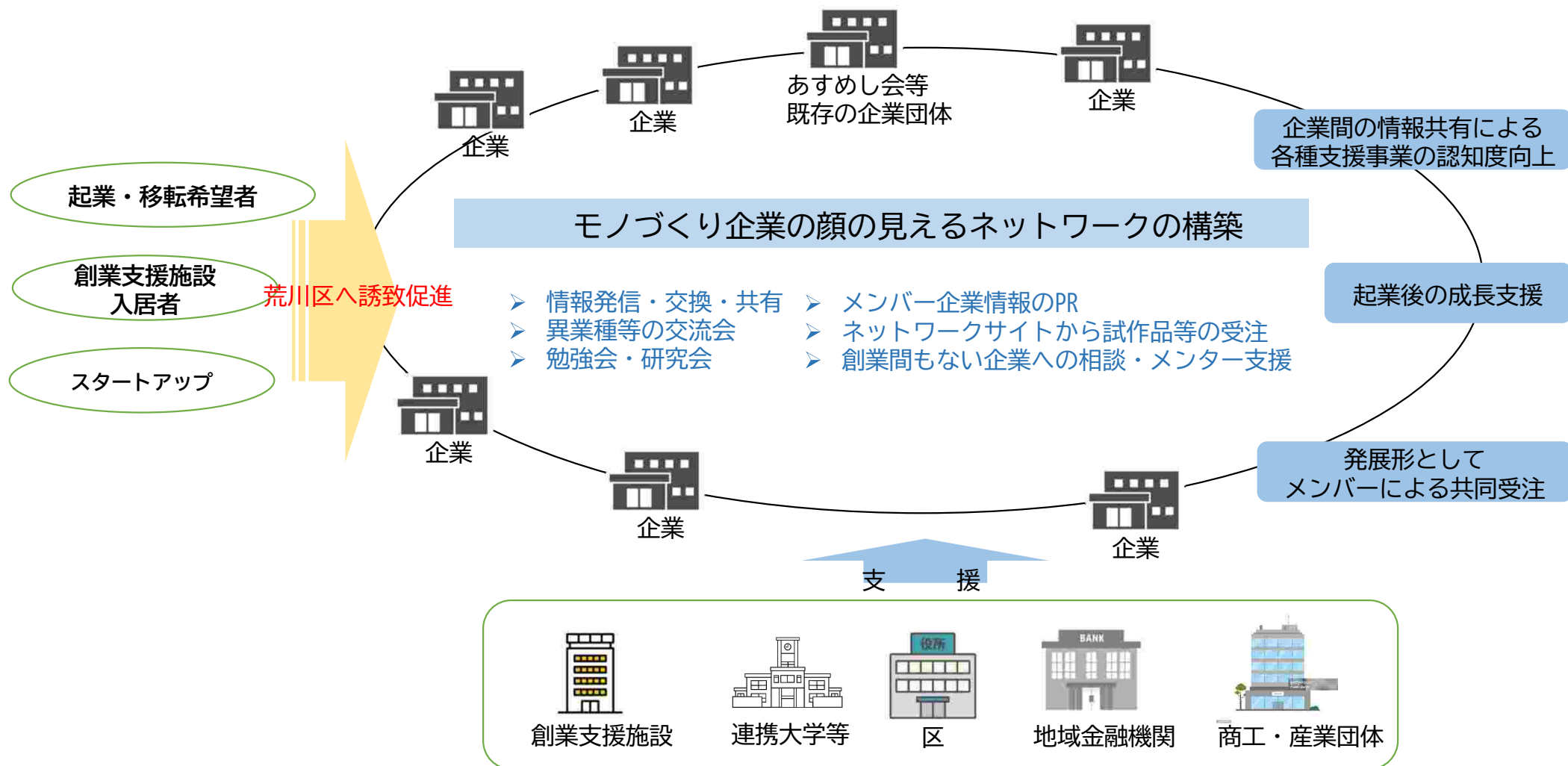
No	課題	対応案
1	・区では様々な支援策を実施しているが、区の支援策の認知度が低い ため効果的な周知が必要である。	・区の支援策を周知するための具体的な方法として、経験者からの口コミによる情報発信、企業間交流の促進などがある。
2	・区内に起業家、企業を呼び込むためには、荒川区の地域特性や強みを 活かしたブランディングが必要である。	・セールスポイントとして例えば、製造業に関する困りごとは荒川区で全て解決可能、小ロット製造・要望に応じた試作品の製造が可能であること、地域コミュニティの近さなどがある。
3	・区内ものづくり技術の PR・活用促進が必要である。	・オンライン上で区内企業の把握ができるよう、区で企業データベースの整備（得意分野のほか、小ロット可・3D データ対応可など対応可能サービス含む）を図る。 ・このような取組はスタートアップにとっても求める企業を見つけやすくなり、マッチングの促進にもつながることから重要。 ・具体的方策として、区内企業紹介・検索サイトである「あらかわ産業 NET」の情報更新を図る。
4	・荒川区発の革新的企業創出を加速させる必要がある。	・区の支援策の認知度向上と起業家・企業のネットワーク形成を促進することで、荒川区発の革新的企業創出を加速。 ・3D プリンターやレーザーカッター、ドリル等の設備利用環境を整える。これは創業初期の人たちの助けとなる。
5	・企業同士の交流、スタートアップとの連携促進を図る必要がある。 ・起業家・企業同士のネットワーク形成を促進する必要がある。	・顔の見える関係となるよう、交流会の実施やテーマを絞っての工場見学ツアー等のイベントを実施する。なお、交流会等の実施にあたっては、イベントが浸透するよう、定期的な開催が良い。 ・日頃の事業で出てくる単純な困りごとを地域コミュニティの中でフォローし合う。こうすることで区内企業のノウハウにもなる。 ・月に1回程度交流会を開催できるようなコミュニティスペース等の企業が集まれる居場所をつくる。こうすることで、企業間の交流を促進し、新たなビジネスチャンスを生み出す可能性がある。 ・また、居場所だけでは不十分で、コミュニティマネージャーをつけたい。コミュニティマネージャーが、積極的に情報提供やマッチングを行うことで、コミュニティの活性化に繋がる。 ・企業交流の実施にあたっては、会員企業による定期的な勉強会等を実施する。 ・今後、企業等のネットワーク構築にあたっては、対面での交流以外に、オンライン上でのコミュニケーションとして公式 SNS の整備を図る。 ・ネットワークメンバーは区内だけに止まらず、近隣地域の企業・団体・大学等との連携も図る。 ・メンバーについては、ただ情報を待つようなぶら下がりではなく自ら情報を発信・提供する姿勢が求められる。
6	・区内にある都立工科高校や高専卒業生の区内企業への就職促進に 向けた取組が必要である。	・大手企業への就職が優先されるため大変厳しい状況であるが、在学中の交流は有益。大手企業就職後に中小企業に転職するケースも見受けられており、交流経験が活かされる可能性もある。交流実施にあたっては、インターン以外にも在学中の研究開発で区内企業が連携する形もある。

2 これまでのまとめ

- ・スタートアップとの連携や口コミでの情報発信・共有等の観点から、各委員からは、区の製造業の強みを活かしたものづくり企業間のネットワーク構築の必要性について言及されている。
- ※ものづくり企業間のネットワーク構築イメージについては別紙参照

ものづくり企業間のネットワーク構築イメージ

地域経済活性化及び観光プロモーション
推進協議会メンバーが参画（想定）



観光プロモーション分科会の提示案について

番号	タイトル	区の見解	備考
1	荒川ユナイトーク	<ul style="list-style-type: none"> ・区民自らが自分たちの住むまちの魅力をスピーチする取組であり、区民が主体的に参画でき、シビックプライドの醸成にもつながる。 ・観光視点だけでなく、シティプロモーションの視点から事業検討するとさらに良いものとなる。 【確認事項】 <ul style="list-style-type: none"> ・対象は区民を想定か。 ・観光プロモーション・産業経済にどのように関連づけることを想定しているか。 	シビックプライド醸成の観点からシティプロモーションと関連あり
2	荒川スナック物語	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでにない発想であり区の魅力的な地域資源の一つとなる。 ・ただし、スナックは風営法の範疇であり、区主体の事業展開はハードルが高いと考えられる。 ・民間主導での取組であれば、スムーズな事業展開が可能。 	
3	ARAKAWA CULTURE & FUTURE LAB ARAKAWA カルチャースクール～子どもたちの未来デザイン塾～	<ul style="list-style-type: none"> ・次代の荒川を担う子供達が自らが住むまちの魅力を発信するとともに、観光プロモーターとしての発掘も可能であり、実現も可能性も高い事業案である。 ・区だけでなく、地域団体等関係者を巻き込んでいくのが効果的であると考ええる。 ・年6回開催の参加者の確保はハードルが高いため、回数を含めた実施内容について更なる検討が必要と考ええる。 	シティプロモーションと関連あり
4	荒川きれいプロジェクト ARAKAWA CLEAN & WELCOME INITIATIVE	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレという観点で観光やまちづくりを進める取組であり、斬新な事業案である。 	都立公園・交通事業者などの管理者との調整が必要
5	荒川異文化ステイ ARAKAWA CULTURE STAY PROJECT	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設の少ない荒川区における空家活用の事業案であり、地域課題となっている空家活用する観点は地域ニーズには合致している。 ・しかし、区での民泊に係る強い規制、適当な場所の確保、空き家活用の方法、実施主体など複数の課題が考えられ、様々な観点からの検討が必要となり、その時間も長期間を要する。 	
6	荒川マネー～地域で稼ぎ、地域で使う、新しい荒川経済圏～ARAKAWA LOCAL MONEY PROJECT	<ul style="list-style-type: none"> ・地域通貨を活用した、地域経済循環が可能となる事業案である。 ・地域通貨の運営経費に膨大なコストを要することが課題。（既に実施している他自治体で数億円かかると聞いている（開発費は別）。）。 ・また、関係する部署や機関が多く存在するため、中長期的な視点で検討を進めていく必要がある。 	決済事業者・金融機関・商連との調整が必要
7	荒川鉄道都市伝説～消えた駅と3つのヒミツ～	<ul style="list-style-type: none"> ・荒川区には多くの鉄道事業者との連携の実績があり、こうした資源を活用した取組であり、効果的であると考えている。 ・区で過去に謎解きは実施したこともあるため、実施は十分に可能と考える。 	交通事業者（JR東日本・JR貨物・都交通局など）と関連あり
8	荒川遊園夜市	<ul style="list-style-type: none"> ・荒川遊園と区内商店等との連携により、地域経済の活性化につながる事業である。 ・令和7年度は、年内開園日数319回のうち、夜間開園日数は207回である。園内では既存の物販事業者があることから、区内事業者の参入について調整が必要となる。 	既存の売店事業者との調整が必要
9	あらかわりリンクス	<ul style="list-style-type: none"> ・区内事業者の横の連携、ネットワークを強化していくことは、区としても今後の課題と認識している。 ・手法となるオンラインコミュニティの中に区も入ることについて、セキュリティ等の関係で支障はないのかなど、オンライン上でコミュニティ構築について調整する必要がある。 	
10	ノスタルジック・アラカワ Nostalgic Arakawa	<ul style="list-style-type: none"> ・時機を捉えた、事業案であり、区としても積極的に進めていく必要がある。 ・事業の具体的実施計画の検討を進めたい。 ・マナーブックは今年度中に実施することも検討したい。 	

荒川区地域経済活性化及び観光プロモーション推進協議会 委員名簿

N0	氏名	事業所名・役職	備考
1	えんどう ともひさ 遠藤 智久	株式会社日興工ボナイト製造所 代表取締役	協議会長・分科会長
2	まるやま しんじろう 丸山 慎二郎	株式会社 R00M810 代表取締役	協議会副会長・分科会長
3	すずき あづさ 鈴木 あづさ	Atashirashiku 代表	
4	たけまえ ともかつ 竹前 友勝	平和商事株式会社 代表取締役	
5	たなか るい 田中 類	株式会社イナック 代表取締役	
6	ほそや まこと 細谷 誠	有限会社丸文製菓 代表取締役	
7	やしろ な ほ 野城 菜帆	株式会社 MizLinx 代表取締役	
8	やまだ あきひろ 山田 章博	山与織物株式会社 代表取締役	

(敬称略)

荒川区地域経済活性化及び観光プロモーション推進協議会 委員名簿 分科会別

1 地域経済活性化に関する分科会

N0	氏名	事業所名・役職	備考
1	えんどう ともひさ 遠藤 智久	株式会社日興工ボナイト製造所 代表取締役	分科会長
2	すずき あづさ 鈴木 あづさ	Atashirashiku 代表	
3	たけまえ ともかつ 竹前 友勝	平和商事株式会社 代表取締役	
4	やしろ な ほ 野城 菜帆	株式会社 MizLinx 代表取締役	

(敬称略)

2 観光プロモーションに関する分科会

N0	氏名	事業所名・役職	備考
5	まるやま しんじろう 丸山 慎二郎	株式会社 ROOM810 代表取締役	分科会長
6	たなか るい 田中 類	株式会社イナック 代表取締役	
7	ほそや まこと 細谷 誠	有限会社丸文製菓 代表取締役	
8	やまだ あきひろ 山田 章博	山与織物株式会社 代表取締役	

(敬称略)

会議の開催スケジュールについて

1 会議の開催スケジュール

(1) 全体会議

- 5月（初 回・全体の方向性の共有、意見交換）
- 10月（中 間・分科会の検討状況の共有、意見交換）
- 3月（最終回・分科会意見の集約）

(2) 分科会

①地域経済活性化に関する分科会

- 6月（第1回・現状や必要な取組に関する意見交換）
- 8月（第2回・方向性や具体的な取組に関する意見交換）
- 11月（第3回・中長期的な課題に関する意見交換）
- 1月（第4回・意見交換の取りまとめ）

②観光プロモーションに関する分科会

- 6月（第1回・現状把握、新たな観光資源に関する意見交換）
- 8月（第2回・効果的な観光プロモーションに関する意見交換）
- 11月（第3回・個別事案に関する意見交換）
- 1月（第4回・意見交換の取りまとめ）